

研究課題名	糖尿病と肝胆膵癌リスクの検討
研究の意義・目的	<p>肝臓がん、膵臓がん、胆道がんは、早期発見が困難な難治癌とされています。また、糖尿病はこれらがんのリスク因子の一つであることが知られています。この臨床研究では、糖尿病の精査や治療のために当院を受診された患者様の診療情報を収集し実臨床での糖尿病における肝臓がん、膵臓がん、胆道がんのリスクを明らかにします。また、血液検査や画像検査の所見の推移を評価することにより、がんの早期発見につながる所見や特徴を解析します。得られた結果により、患者様によりよい医療を提供することができるようになることが目的です。</p>
研究を行う期間	機関の長の実施許可日 ～ 2029 年 3 月
研究協力を お願いしたい方 (対象者)	2020 年 4 月 1 日から 2029 年 3 月 31 日の期間中に、糖尿病の精査および治療で当院を受診された方が対象となります。
協力をお願いしたい 内容と研究に使わせ ていただく試料・情 報等の項目	<p>診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させていただきます。</p> <p>患者基本情報：年齢、性別、基礎疾患、内服薬、背景肝疾患、既往歴、癌治療歴、糖尿病治療内容、治療経過情報、病理組織診断など診療録、画像データの記録</p> <p>血液・尿検査：血液一般検査（Hb, PLT, WBC, WBC 分画）、生化学検査（AST, ALT, BUN, CRE, UA, γGTP, T.Bil, Na, Cl, K, Ca, P, FBS, HbA1c, グリコアルブミン、インスリン、HOMA-R, C ペプチド）、蛋白分画（TP, ALB）、血液線維化マーカー（ヒアルロン酸, M2BPGi, 4 型コラーゲン 7S, FIB-4 index）、腫瘍マーカー（AFP, PIVKA-II, CEA, CA19-9, SPAN-1, DUPAN）、その他血液検査（HCV 抗体, HCV-RNA, HBs 抗原, HBV-DNA, IgG, IgM, 抗核抗体, 抗ミトコンドリア抗体など）、尿検査</p> <p>画像検査：腹部超音波検査、フィブロスキャン検査、単純および造影 CT、単純および造影 MRI、上部消化管内視鏡検査、超音波内視鏡検査、内視鏡的逆行性胆管膵管造影、胸部レントゲン、放射線科読影レポートなど</p>
試料・情報を 利用する者の範囲 および管理について 責任を有する者の 研究機関の名称	<p>この研究は、公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院医学研究科肝胆膵病態内科学、代謝内分泌病態内科学、消化器内科学のみで行います。</p> <p>【研究責任者】 肝胆膵病態内科学 准教授 打田佐和子</p>
本研究の 利益相反	<p>利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。</p> <p>本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。</p>
研究に協力を したくない場合	診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益を受けることはありません。

連絡先	大阪公立大学医学部附属病院 肝胆膵内科 担当者氏名：打田佐和子 電話番号：(06) 6645-3905 メールアドレス：sawako@omu.ac.jp
------------	---